

環境放射能分析・調査・コンサルティング等のご案内

当協会は1976年（昭和51年）4月に科学技術庁（現：文部科学省）から「放射性同位元素等使用許可」等を受けて以降、環境中に極微量に存在している放射性物質について、その分析法の確立や環境動態の解明に関する調査・分析・研究等を実施しています。

分析法については、従来法である放射能分析法（ α 線、 β 線及び γ 線分析法）に加え、加速器質量分析（AMS）法、ICP質量分析法等を導入するとともに、煩雑で熟練した技術が要求されるトリチウム、炭素14、放射性ストロンチウム及びプルトニウム分析等についても確立し長年の経験があります。

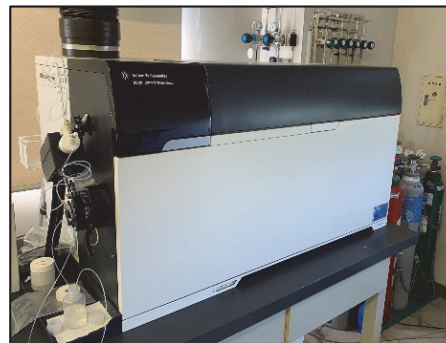
当協会の分析技術は、低レベル測定が要求される環境放射能調査や 福島第一原子力発電所事故に伴う環境調査の他、食品、地球化学及び文化財科学等の様々な分野で、行政・民間を問わず、様々なお客様にご利用いただいております。



2 π ガスフローカウンター(手前)と
液体シンチレーションカウンター(奥)



ゲルマニウム半導体検出器



トリプル四重極型ICP質量分析装置
(ICP-MS/MS)

環境放射能分析は、対象となる放射性物質とその検出下限値等により、分析法、供試料量、納期及び分析費が異なります。詳細についてはお気軽にお問い合わせ下さい。

一般財団法人 九州環境管理協会 本部 〒813-0004 福岡市東区松香台1丁目10番1号

分析のご依頼 TEL：092-662-0948、Email：syougai@keea.or.jp

【事務所】東京 【支所】福島・山口・北九州・佐賀・長崎・大分



<http://www.keea.or.jp/>

■環境放射能分析に関する許可と登録

分類	対象
許可	放射性同位元素等使用許可
	国際規制物資の使用許可
	核燃料物質の使用許可
登録	ISO9001 認証（技術部）
	ISO/IEC 17025 認証 （食品の放射能測定）
	エコアクション 21 認証

■資格取得者

資格取得者	人数
第一種放射線取扱主任者	6
第二種放射線取扱主任者	2

■国際技能試験への参加

当協会では、分析技術の維持向上のため、国際原子力機関(IAEA)が主催する環境放射能分析の国際技能試験〔Proficiency Test(PT)〕等に参加し良好な成績を取っています。

■主な保有機器類

保有機器
ゲルマニウム半導体検出器
2 π ガスフローカウンター
低バックグラウンド液体シンチレーションカウンター
表面障壁型Si半導体検出器
トリプル四重極型ICP質量分析装置 (ICP-MS/MS)

環境放射能調査・研究

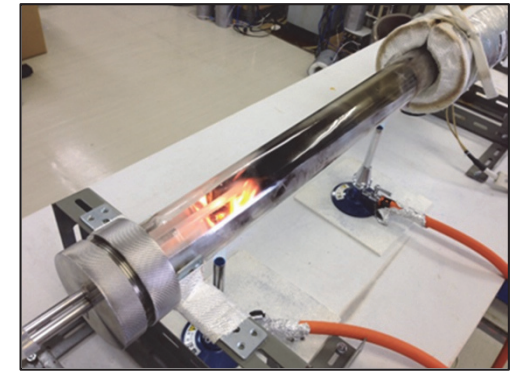
低レベル測定のための分析手法の確立、一般環境や原子力関連施設周辺環境の環境調査及び環境動態の解明に関する調査・研究等を実施しています。

- ・原子力関連施設周辺の環境モニタリングに関する調査・研究
- ・自然放射線量測定に関する調査・研究
- ・AMS法による長半減期放射性核種の分析手法に関する研究
- ・低濃度トリチウムの分析手法の開発及び環境動態に関する研究
- ・放射性物質の移流拡散シミュレーションに関する研究
- ・地下水の地球化学的水質特性に関する調査・研究
- ・安定同位体比による酸性雨や越境汚染に関する調査・研究
- ・機器分析によるSr-90、I-129他放射性元素の迅速測定の研究 等

福島第一原子力発電所事故に伴う環境調査・分析及びコンサルティング等の実績

被災地の1日も早い復興を願い、環境放射能に関する専門知識や分析技術を生かした支援を今後も継続してまいります。

分析試料	分析項目
森林・農地土壌、水道水、地下水、海水等の環境試料及び、廃棄物・除染等の試料	プルトニウム(239+240)、ストロンチウム90、トリチウム、セシウム134及び137等
農産物や海産物等の食品・生体試料	プルトニウム(239+240)、ストロンチウム90、FWT(自由水中トリチウム)、OBT(有機結合型トリチウム)、セシウム134及び137等



石英管燃焼による
OBT(有機結合型トリチウム)抽出操作

- ・サーベイメーターを用いた空間線量率及び環境試料サンプリング・分析調査
- ・家屋内の線量測定・調査及び評価
- ・放射性セシウム捕捉ポテンシャル(RIP)試験・土壌理化学性試験
- ・住民帰還に向けた検証委員会資料作成及び運営
- ・放射能関連測定結果のとりまとめ・整理(線量マップ作成)及び評価
- ・化学物質等の拡散予測計算 等

年度毎の受託実績をまとめております。お気軽にお問い合わせ下さい。